

開催日：平成30年10月13日（土）
会 場：練馬区立大泉小学校 体育館

事業及び測量説明会における主な「質問回答」及び「意見」 【東京都市計画道路補助線街路第156号線】

【質問回答】

質問1：補助第156号線が優先整備路線となった理由の地域の安全性の向上について、都道233号が他の道路よりも極端に事故件数が多いとは感じないが、選定にあたっての基準は？

回答1：都道233号の事故件数を代表事例としてご説明は致しましたが、233号の交通の分散だけではなく生活道路への車の流入抑制など、地域の皆様が普段使用されている道路の安全性を向上させるべく補助第156号線の整備を進めていきたいと考えています。

質問2：都内において、現道がない住宅街を貫く本件のような事案が他にあるか。

回答2：例えば西武池袋線の中村橋の南側に中杉通りという道路がありますが、その東側の補助第133号線という都市計画道路の事業認可を受けたところです。この道路も補助第156号線と同様に住宅街を貫く整備区間となっています。

質問3：補助第156号線の北側において整備している放射第7号線の見通しは。また、放7開通後の道路状況を考慮したうえで補助第156号線を必要と判断したのか。

回答3：放射第7号線の用地取得状況は約95%を超えており、残りの用地についてお譲りいただくべく鋭意折衝を進めています。放7だけ完成したとしても地域の生活道路への流入の解消には至らないと考えており、補助第156号線の整備もあわせて必要と考えています。

質問4：都道233号は確かに狭く危険とを感じるが、無電柱化の検討はしたのか。

回答4：無電柱化をする場合、地上機器という電気を高圧から低圧に変換する機械を路上に設置することになります。都道233号には地上機器を置く場所がないため、当面地中化の予定はございません。

質問5：ネットワーク化による交通量の分散など、具体的なデータにより補助第156号線の必要性を検証したのか。

回答5：「第四次事業化計画」の策定において行いました将来交通量のシミュレーションの中で、補助156号線については将来交通量1日当たり6,000台以上という確認をとりました。

質問6：測量作業を進める中で都市計画線の位置が変わることはあるか。

回答6：現在、縮尺2500分の1の図面に引かれている都市計画線の位置を、今回の測量により、縮尺250分の1の図面でより詳細な位置を決定していきます。測量は精度を高め計画線の位置を現地に落とせるようにするために、都市計画線の位置が大幅に変わることはありません。

質問7：なぜ現況測量の範囲は都市計画線の両側から30mなのか。

回答7：測量で計画線の位置を現地に落とすためには、都市計画道路を外側から囲むように測量の基準となる点を結ぶ必要があります。また、計画線にかかる土地だけではなく、その土地と隣接する土地についても境界をご確認頂く必要があります。これらのことから若干広めに範囲を設定し、約30mとしています。

質問8：沿道から離れた区域も防災性が向上するのか。

回答8：補助第156号線は、無電柱化により電柱の倒壊リスクがなくなります。その結果、緊急車両が補助第156号線やその脇の生活道路などに入って行きやすくなると考えております。156号線の範囲のすぐ近くには震災用の貯水槽がありますが、そのような箇所が防災拠点となると考えます。ただ、現状が危険なのではなく、156号線ができればさらに防災性が高まるとご理解願います。

質問9：道路の整備後、第一種低層地域の地区計画はどうなるのか。

回答9：練馬区の都市計画マスタープランでは、補助第156号線の沿道では「周囲と調和しつつ建物の中層化などを図る」とうたわれています。都の道路整備と合わせた地域のまちづくりについては、今後、練馬区が地域の方々と「まちづくり協議会」を結成し、その検討次第となると聞いています。

質問10：用地測量で立会いが必要になるが、測量への協力は義務なのか。

回答10：今回の説明会の後に、改めて「測量に入らせていただきます」というご案内のチラシを地域に配布させていただいた上で、測量に着手させていただきたいと考えています。測量に協力する法的な義務はございませんが、事業を進めるにあたって、現況測量と用地測量が必要となりますので、何卒ご協力頂きたいと考えています。

【意見】

意見1：2020年以降の財政が不透明な中で進めるべき計画ではなく、見直しをするべき。

意見2：スライドには混雑している写真を掲載しており、説得しようとする意図と悪意を感じる。
また、撮影ポイントの交通状況は補助第156号線の整備と関係がない。納得できるような写真を用意し、もう一度説明会を開いて欲しい。

意見3：道路整備により歩行者と自転車の交通が分断される。我々生活している住民のための本当に必要な道路なのか再考して欲しい。

意見4：自転車・歩行者の利用についてもシミュレーションし分析すべき。

意見5：説明会の場で手を挙げて意見を述べる人は限られた人。皆の本当の心理はわからないだろう。アンケートや返信用の封筒などを配り、多数の意見を集め、見極めをしてみてもいかがか。

意見6：生活道路に流入しているという車の車種は？現状の流入している車種がわからないのに、補助第156号線へ交通を転換するという根拠が乏しい。

意見7：西武線の立体化をすれば開かずの踏切の渋滞が解消し、生活道路への車の流入も解消する。立ち退きをする必要もなくなるため、西武線の立体化を検討して欲しい。

意見8：道路整備後の地区計画についても練馬区を同席させ説明すべき。

意見9：補助第156号線整備の根拠となる交通量シミュレーションの結果をインターネットなどで公表すべき。